



子どもの頃、夢中で読んだ
『トム・ソーヤーの冒険』。
トムとハックのツリーハウスに
どれほど憧れたことだろう。
秘密基地は
子どもたちの永遠の憧れ。



上／「家」の裏側はスキップフロアの共有スペース。遊び場にちょうどよい広さ 左下／ダイニングから芝生の庭へ。裸足で遊んでも安心だ 右下／将来はご主人の書斎スペースとしても利用できる



Livin' with Kids 

05 長岡市 H 邸
家の中に家

自分だけの 秘密の隠れ家

「いつまでも思い出に残る家を」、
そんな両親の想いから生まれた
「家の中のもうひとつの家」。
赤い屋根と煉瓦を模した煙突は、
絵本の世界に迷い込んだよう



お子さまが元気に駆け回れる広々としたLDK。「食事中はテレビが見えないように」という奥さまの配慮によって、テレビは食卓からは見えない位置に配置されている



リビングから続く和室。壁紙も天井もすべてリビングと同じ素材を使って一体感を演出



上2点／窓枠やコーナーにはグリーンや好きな小物を飾って。楽しむ景色をつくることは毎日の暮らしを楽しむ秘訣 右／「小さな家」は遊び場にも、収納にも、書庫にも

Livin' with Kids



新興住宅地の一角に建つH邸。その2階には、赤い屋根に白い壁、煉瓦を模した煙突のある「もうひとつの家」が隠されている。まるで物語に出てくるような小さな家は、「子どもが成長した後も思い出に残る家をつくつてあげたい」という両親の想いを受けて生まれたもの。設計チームのひとりである渡辺隆行さんは、「いろいろな意見が出ましたが、『家の中に家があったらおもしろいよね』とアイディアが膨らみました」と語る。こうして、秘密の隠れ家にも、おまじこと舞台にも、絵本を読むスペースにも、お昼寝場所にもぴったりの夢のある空間が誕生した。

1階は家族の共有スペース。吹き抜けのリビングは、天窓から陽射しがふんだんに降り注ぐ。白を基調にしたナチュラルな空間に、チェストやダウンライトなどのグリーン系の小物を配してアクセントを。仕事をもつ奥さまの家事の負担を少なくするために家事動線はコンパクトに、好きな雑貨や器に囲まれて楽しく家事ができるようにと配慮されている。

引越して二人目のお子さまの出産が重なってしまったHさん一家。新しい家族を迎えて、いっそう賑やかな生活がここから始まっていく。

赤い屋根のタイニーハウスは、
両親からの最高のプレゼント。
どんな物語が紡がれてゆくのだろう